

## はしがき

世界経済を構成する各国・各地域経済は国際相互依存のもどで世界経済のダイナミズムに組み込まれており、ますます相互の密接なつながりは強まっている。このような世界経済のダイナミズムの変化は経済統計という観点からは産業構造と貿易構造が相互に関連しつつ変化していく過程と考えられる。

こうした産業構造と貿易構造の変化を把握する国際的な統計としては前者はUN作成あるいはOECD作成の国際貿易統計があり、後者についてもUN作成あるいはOECD作成の国際産業統計がある。しかし、この両者を結びつける対応関係は存在しているが、必ずしも整合性があり、使い勝手のいいものではない。しかも、貿易構造や産業構造の変化に応じてそれぞれ分類の改訂がおこなわれ、同一系列の分類でさえ複雑な対応関係があることに加えて、別構造系列との対応関係を考慮すると貿易分類と産業分類間の対応関係における整合性に疑問が生じざるを得ない。アジア経済研究所では産業構造と貿易構造との関係を国際産業連関表の産業部門と貿易統計の商品分類(SITC)の対応関係という形でとらえ、この対応関係をもとにUN貿易統計およびOECD貿易統計による産業別の時系列貿易マトリクスを作成してきている。

貿易統計を時系列的に利用する場合に、SITCの改訂がおこなわれた前後で商品のくくりかたに変更が生じていれば取引額や数量の連続的な利用に問題が起きる。UNではSITCの改訂にあわせて改訂前後で接続できるような対応関係のコード表を作成している。この対応関係

コード表を利用してアジア経済研究所は貿易マトリクスの時系列的な利用を図ってきた。また、これらの時系列的な利用という経験を通してSITCの各バージョン間の対応関係をモデル化するという試みもおこなわれている。

対応関係コード表の中で閉じた対応関係にある基本項目の集まりが商品グループであり、「切断」という方法にもとづくサブグループ化により商品の特性を明確にすることが可能となる。しかも、切断の仕方によって商品のグループおよびサブグループが決まるので切断の仕方は対応関係コード表をグループ・サブグループ化する1つの対応関係のモデルとなる。

商品分類SITC-R1とSITC-R2の対応関係コード表はUN統計局発行の*Standard International Trade Classification Revision 2*から得られるが、対応関係のモデル化にさいしてアジア経済研究所が調整した対応関係コード表を対象とした対応関係のモデルを基本モデルGRT<sub>12</sub>[B]という。また、商品分類SITC-R2とSITC-R3の対応関係コード表はUN統計局発行の*Standard International Trade Classification Revision 3*から得られ、これにもとづく基本モデルをGRT<sub>23</sub>[B]という。SITC-R2からSITC-R3への変更における分類基準の変更および新設による複雑な絡み合いにより、基本モデルGRT<sub>23</sub>[B]にはその特性が明確でない商品グループが含まれる。これを明確化するために対応関係に切断がおこなわれる。このようにして作成されたのがアジア経済研究所作成の切断モデルGRT<sub>23</sub>[IDE]である。基本モデルGRT<sub>12</sub>[B]と切断モデルGRT<sub>23</sub>[IDE]の2つの対応関係を連結したSITC-R1からSITC-R3まで

の対応関係モデルを連結モデルといい、アジア経済研究所作成の連結モデルがGRT<sub>123</sub>[IDE]である。

本書の第1章において商品分類の対応関係モデル化を説明し、それにもとづいてSITC-R1とSITC-R2の基本モデルと、連結モデルを作成を試みている。

産業構造については、アジア経済研究所は東・東南アジア各国と日本、米国の国際産業構造を分析するために、アジア国際産業連関表を作成してきた。これらの表の作成のさいに各国のオリジナルデータを用いて生産統計と貿易統計の対応を図っているが、アジア国際産業連関表の共通部門分類は必ずしもISICに準拠していないため、各国の貿易分類を直接共通部門分類に対応させる方法を取っている。この共通部門分類は東・東南アジア地域の貿易構造や産業構造において重要な部門を設定するという考え方を基準として24部門を設定しこの部門分類にもとづいて国際産業構造を明らかにしている。ただし、この24部門にはサービス部門の4部門が含まれるため、商品貿易と対応させる部門数は20部門である。本書ではこの20部門を「IO-20部門分類」と呼ぶ。このIO-20部門はSITCの各バージョンに対して対応づけられており、

貿易マトリクスを時系列のおよび産業分類に編集することを可能にしている。

本書の第2章ではSITCの各バージョンをモデル化して連結した対応関係にIO-20部門分類を対応させ、これまで利用してきたSITCとIO-20部門分類の対応関係の評価および再調整をおこない、整合性のとれたSITCとIO-20部門分類の対応関係の作成を試みている。

本書はSITCの対応関係のモデル化とモデル化されたSITCとIO-20部門分類の対応関係に限り時系列利用の可能性も含めて検討・調整しているが、この成果はより一般的な貿易構造と産業構造の対応を考慮するさいにも何らかの示唆を与えるものになると思われる。

1998年3月

アジア経済研究所統計調査部長

佐野敬夫

同調査役

古河俊一

同統計調査部統計企画解析課課長代理

野田容助